

レッサータロットで断ち札トリテ

Trick Taking Game "Trump Breaker" for LesserTarot

人数: 3~5人
時間: 30~60分
年齢: 10才以上

ゲーム創作者: フェスカ・つじむら
ルール発行者: 按理具庵
発行日: 2026年10月18日

正式版: 2026.09.17 Rev. 100

概要

標準ポーカーを改良するためにレッサータロットと云うカード構成を再発明しました。(4+1)スートの構成が似ているのでタロットの名を冠しています。タロットは元はトリックテイキング(以下「トリテ」と省略)ゲーム用のカードであったことはあまり知られていません。

この再発明したレッサータロットでトリテをしたらどうなるかと考えるのは必然です。新たな追加札は少ない枚数なので「切り札」に勝てる特殊な強い札として扱うとして「断ち札」と命名しました。

レッサータロット54の構成

	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
スペード												
ハート												
クラブ												
ダイヤ												

エクストラ
(追加札)

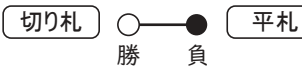
Jo	Jo	A	A	A	A
ker	ker	◆	♣	♥	♠

{ = Ex A(エース)札4枚とJoker(ジョーカー)2枚の計6枚を
無スート無ランクの特殊な同一の追加札とみなす }

基本構造

切り札はリードスート札より強いと云う単純構造

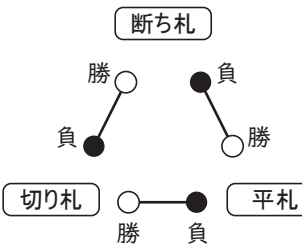
従来のトリテ



断ち札トリテ

断ち札は切り札に勝つがリードスートの平札に負ける三角関係の構造

断ち札は場に切り札が在ると最強となるが、無いと最弱となって平札に負ける。
ただし複数枚の断ち札が出ると対消滅して場に無いことになって負ける。



経緯の詳細

標準ポーカー役の改良のためにジョーカー2枚とエース4枚を追加の特殊札とみなす**レッサータロット54**の構成を発明しました。

レッサー(lesser)はレッサーパンダとジャイアントパンダ(いわゆる白黒柄の大熊猫)の関係と同じく、従来の大きな78枚構成のタロットに対して、「**より小さい**」の意味を込めて名付けました。

元となるタロットは今では古い用途で認知されていますが、実はトリックテイキングゲーム史上の革命ともいえる「切り札」ルールの発明と共に生まれた(4+1)スートのゲーム用カードなのです。

切り札専用の追加カードは標準4スートとは全く別の切り札スートとして扱われているので(4+1)スートと表現しています。一時期は普及したのですが、後に「4つある標準スートの1つを切り札スートとみなして扱う」と云う破壊的な革新ルールの発明によりゲーム用タロットカードは廃れてしまいました。(後に古い用カードとして復活)

タロットの追加札は22枚であり、標準スートのランク数(R=14枚)より多い枚数であったのに対し、レッサータロットでは追加札の枚数は、このRより少ないことが特徴であり、さらにタロットの追加札にはあった独自のランクがレッサータロットでは無いことも特徴です。

正にゲーム用タロット構成の再発明なのですが、現在は標準の「みなし切り札」のルールはそのままに、新たに追加する札を超(スーパー)切り札として、従来の切り札に勝てるように考えたのがレッサータロットのトリテです。ただし単純に切り札に勝てる最強札とするのでは面白くないので特殊な制限を加味することでゲームバランスを調整します。

切り札は英語でトランプ(Trump)ですので、新たに追加する札は「抗トランプ」の意味でアンチトランプ(Anti-Trump)になりますが、「切り札」と云うすばらしい意識に対応させて和名を「**断ち札**」と呼ぶことにします。

この「断ち札」を使うトリテなのでゲームとしての名前は「断ち札トリテ」として、これから英語に逆意識して“Trump Breaker”(切り札を壊す者)としました。

カード構成

LesserTarot60_S4R13B6E2

	A	2	3	4	5	6	7	8	9	10	J	Q	K
♠													
♥													
♣													
◆													
断ち札 Breaker													
逃げ札 Excuse													

(52+2)枚の標準トランプ構成に新たに6枚の「**断ち札**」を加えた**60枚**構成を**トリテ用の標準**レッサータロット構成とする。
断ち札6枚はポーカー用が元であるが、4人制で配ってほぼ各1枚が割り当てられる枚数として適切な枚数である。
また60枚は3~6人で均等配りできる最適な枚数のため採用とした。
ジョーカー2枚は逃げ札として割り付ける。

LesserTarot52_S4R12B4

	2	3	4	5	6	7	8	9	10	J	Q	K
♠												
♥												
♣												
◆												
断ち札 Breaker												

S4R12B4の**52枚**構成をトリテ用の**暫定**の構成とする。主流のトリテが4人制であるので、配り切り可能な52枚と同じとする。断ち札はA札の4枚のみとなる。

断ち札

断ち札は無条件でいつでも出せる。

場に切り札があるとき、断ち札は切り札に勝つ。ただし場に複数枚の断ち札が出たときは、断ち札は全て対消滅して切り札側に勝つ。

場に切り札が1枚も出ていなければ、断ち札はリードスート札に負ける。

マストフォローに従って手札にリードスートがあれば、その札を出さなければならないのがトリテの標準のルールでゲームの大原則である。

断ち札はランクの無い「ゆるい化け札(スートワイルドカード)※」の扱いとするので、手札にある断ち札はリードスートに化けて出すことができるし、他のスートに化けているとすれば出さない選択もできる。

断ち札をリードする場合は化け札(任意のスートとみなせる)扱いなので、次の手番の人はどのスートを出してもよい。実質的にそのスートがリードスートになる。2番手以降の人が続けて断ち札を出すことも可能だが複数枚の断ち札が出ることで負けが確定する。リードスートは断ち札を出したその次の人が決めることになる。もし全員が断ち札を出したら、リードスート不定のままとなり、そのトリックは勝者無しとする。札は獲得できないし獲得トリック数にもカウントされない。ただし次のトリックのリード権は継続してリードプレイヤーが得る。

※「ゆるい化け札」の意味は手札に在る内は持ち主が自由にスートを決められるということ。ちなみに「きつい化け札」は反対に自由に決められないこと。例えば「きつい化け札」なら必ずリードスートとみなされてフォローの対象になる。

断ち札

(Braker)



断ち札は固定で枚数が少ない。

切り札

(Trump)

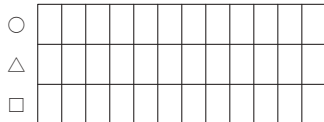


切り札は4つのスートから1つ適切な方法で選び決められる。

平札

(plain suits)

(Normal)



平札(ひらふだ)は切り札に指定されなかった残りの3スートの札である。

逃げ札

(Excuse)



逃げ札はいつでも出せるが必ず負ける。

逃げ札

逃げ札は断ち札と同じく「ゆるい化け札」の扱いで、マストフォローに従わずいつでも自由に出せる。しかしながらトリックには必ず負ける。
逃げ札をリードした場合は、手番が次の人が出した札がリードスートとなる。1人だけ逃げ札を出し、残り全員が断ち札を出した場合は逃げ札のみが残って、唯一の例外でトリックに勝つことができる。
場に逃げ札が複数枚出ると対消滅する。

平札	切り札	断ち札	勝	備考
○	○	—	切り札	通常のトリテと同じ
○	—	○	平札	切り札無しで断ち札是最弱
—	○	○単	断ち札	切り札有りで断ち札是最強
○	○	○単	断ち札	
—	○	○複	切り札	断ち札が複数枚で対消滅(存在しない扱い)
○	○	○複	切り札	